

地域と農業を結ぶ、ふれあいと紳の発信源

# Ag'resh

2021. VOLUME.141

12



## 特集 JA十和田おいらせの 2021年を振り返る



JAは地域社会の  
課題解決とともに、  
SDGsの実現へ  
貢献していきます。

「よいえ」プロジェクト



地域じまんのモノ語り

## 「かだあ～れ」の職人が教える ハレの料理

ファーマーズ・マーケット「かだあ～れ」の職人に日本の  
“ハレの日”文化にぴったりのレシピを2品教えてもらいました。  
簡単においしくできるので、お正月のおせちにもオススメです。

“ハレの日”とはお正月やお盆をはじめとする年中行事のほか、  
儀礼や祭りなどの非日常のことです。



「かだあ～れ」鮮魚担当:吉崎さん



### 作り方

- ① 材料はすべて一口大の食べやすい大きさにカットする
- ② 鍋にごま油をひき、ラビ、フキ以外の材料を入れて5分くらい炒める
- ③ 水を入れて、20分くらい煮る
- ④ ラビ、フキを入れて、調味料Aを入れる
- ⑤ 煮汁が濃くなり具材に味がしみたら完成

## 野菜たっぷり 筑前煮

材料／2人前

ゴボウ	50g	ラビ	50g
こんにゃく	150g	フキ	50g
里芋	100g	水	300cc
タケノコ	100g	ごま油	小さじ1
ニンジン	50g	みりん	大さじ2
レンコン	50g	しょうゆ	大さじ2
鶏もも肉	100g	酒	大さじ2
		砂糖	小さじ1

**調味料A**

### Point

ニンジンやレンコンは花形にカットする  
と華やかに仕上がります

## 伊達巻き

ふわっと簡単

材料	
はんぺん	1枚
卵	4個
砂糖	60g
みりん	大さじ1
しょうゆ	小さじ1

### 作り方

- ① 材料をすべてミキサーにかける(はんぺんの白い部分が見えなくなるまで)
- ② フライパンに油をしいて①を流し込み、アルミホイルでふたをして弱火で15分ゆっくりと焼く
- ③ 生地がきつね色になってたら裏返して1分焼く
- ④ 焼けたら巻きすぐやさしく巻き、カットしたら完成



公式Facebook  
JA十和田おいらせ

■令和3年12月10日発行 ■発行／十和田おいらせ農業協同組合 TEL.0176-23-0311 FAX.0176-24-1829  
■編集／JA十和田おいらせ 広報編集委員会 ■公式ホームページ <https://www.jatowada-o.or.jp> ■Email [soumu@jatowada-o.or.jp](mailto:soumu@jatowada-o.or.jp) ■印刷／アート印刷

表紙紹介  
● シリーズ 日本の農業に生きる後継者 Vol.109  
けいしょうびと

# 継承×人

七戸支店管内

ますやま なおゆき  
増山 直幸さん(28)



## 農業の奥深さ

学生の頃から作業を手伝うことはあったが、作物の生育や機械の使い方などの知識はなく、ゼロからのスタートだった。父の作業を見て覚え、両親や作業員との会話から新たな情報を得る。「農業は奥が深い。毎日が勉強だ」とこまめに現場を巡回し、作物と真っすぐに向き合う。

## 一人前になり両親に楽をさせたい

仲間の声掛けもあり、青年部員としても活動する。作業の合間にみて地元小学生と田植え体験などを行い、農業の魅力を伝えている。今後の目標について「地道に知識を吸収して一人前になり、両親に楽をさせたい。今ある農業を守り、子どもたちにも農業の楽しさを伝えていきたい」と意気込む。

冷たい秋風が吹きつけるなか、両親と作業員でナガイモの収穫作業に忙しくする。作業は12月中旬まで続き、多い時はスチールコンテナ約130基分を出荷する。「近年の天候不順が心配のタネだが、良品質に仕上がった」と笑顔が弾ける。

## 苦労や喜びの分かち合い

就農して4年目になる。大学卒業後は、東京の会社に就職した。祖父が体調を崩したことを見つかり、脱サラしUターン。「まさか家族と仕事をするとは思わなかった。苦労や喜びを分かち合うことができるのがうれしい」と優しく微笑む。慣れたハンドル操作でナガイモを掘り起こす直幸さんを見て、父・政敏さんは「一生懸命でじめだから、安心して任せられる」と胸を張る。

プロフィール…ますやま なおゆき  
八栗平地区  
組合員=増山政敏(父)  
家族構成:本人、父母、祖父母、兄  
農業経営:水稻3.5ha、ナガイモ2.5ha、  
ニンニク1ha、大豆3.5ha、  
ブルーベリー20ha、カシス5ha

## 告知版

指導  
やさい部

### 我が家のかがいも レシピ 大募集!!

当JAの主力野菜「ナガイモ」の消費拡大に向けて、ナガイモのオリジナルレシピを募集します。ご応募いただいたレシピは当JAホームページ等に掲載するほか、レシピカードを作成し、消費宣伝活動に活用します。受賞した方にはファーマーズ・マーケット「かだあ～れ」のおいしい商品をプレゼント!

たくさんのご応募をお待ちしております!

募集対象 :県内外問わずどなたでも応募可能  
募集期間 :令和3年12月10日(金)~令和4年2月28日(月)  
応募方法 :応募用紙を記入し料理写真と一緒に郵送またはE-mailで応募  
※当日消印有効

#### 受賞者賞品

- |            |                         |
|------------|-------------------------|
| 最優秀賞<br>1名 | 「かだあ～れ」特製焼き肉セット10,000円分 |
| 優秀賞<br>4名  | 「かだあ～れ」商品詰め合わせ5,000円分   |
| 参加賞        | QUOカード500円分             |



応募用紙・詳しい内容はホームページからご確認ください。

応募・お問い合わせ先(指導やさい部やさい販売課 担当:紺野、下田中)  
TEL.0176-23-0393

E-mail:e-simotanaka@jatowada-o.or.jp

金融部

### 冬の貯めトクキャンペーン 懸賞金付き定期貯金



期間:令和4年1月31日(月)まで

④よりぞう

#### 懸賞金額

- |     |                      |
|-----|----------------------|
| 1等賞 | … 1万円× 75本(1ユニット15本) |
| 2等賞 | … 5千円×150本(1ユニット30本) |
| 3等賞 | … 3千円×300本(1ユニット60本) |

■対象者 … ①総合口座へ定期貯金をお預け入れの方  
②キャッシュカードまたはJAカード(一体型)を保有する方

■取扱商品 … 「スーパー定期貯金(単利型)」自動継続型  
■10万円以上の定期貯金(新規・増額)での預け入れ

期間中にご契約いただいた方に10万円につき一口の懸賞金抽選権がつきます。

詳細は金融窓口までお尋ねください

もくじ contents  
あぐれっしゅ  
vol.141

12  
(師走・しわす)

特集 4~6p  
JA十和田おいらせの2021年を振り返る  
継承人 ..... 3p

NEWS&TOPIC  
地域の話題 ..... 7~10p

かだあ～れ 情報 ..... 11p  
あぐれっしゅ情報① ..... 12~13p  
おにぎりNo.1決定戦結果発表

あぐれっしゅ情報② ..... 14~15p  
ごはん・お米とわたし  
作文図画コンクール審査結果

あぐれっしゅ情報③ ..... 16p  
お知らせ  
ふれあい広場  
頭の体操 パズル? ..... 17p

information ..... 18~19p

腕じまん  
地域じまんのモノ語り ..... 20p  
ハレの料理レシピ

JAの概況 令和3年12月1日現在  
正組合員数/6,351人  
准組合員数/5,320人  
役員数/26人  
職員数(准職・嘱託含)/278人  
貯金高/833億5,380万円  
貸出高/181億4,476万円

## 1月ローン相談会

(本支店のご案内)

開催の日時・場所

8日(土) 15日(土) 22日(土)  
9:00~12:00  
むつ支店

15日(土)  
9:00~15:00  
本店・大深内・藤坂・ももいし  
下田・上北・十和田湖・七戸  
横浜町の各支店

農業機械・農業に関わる  
設備資金等の相談も承ります。

**8月** 2年ぶり担い手育成塾再開  
～達人が栽培のコツを伝授～



**9月** ネギ収穫機の導入助成を新たに  
～やさい産地拡大対策事業～

令和4年度はニンニク作業機と合わせて年間10台分1,000万円の事業費を見込む。

**9月** 令和3年産米「まっしぐら」概算金大幅下落  
～1等米60kg8,000円～

前年産より3,400円下げた。下げ幅は過去最大になる。

**9月** 青森県全体のコメの作況指数  
「102(やや良)」  
～東北農政局(9月25日現在)～

**9月** JA職員対抗のおにぎりNo.1決定戦  
～管内主力米「まっしぐら」の消費拡大へ～

**10月** 稲作農家の支援対策に1.1億円  
～種子の購入助成、乾燥・調整の経費助成～  
○水稻種子購入助成…11,948千円  
○乾燥・調整経費助成…99,000千円

**11月** ドライブスルーで農産物セット販売  
(ももいし支店・下田支店)  
～消費者と農家を支援～(10p参照)



**11月** 常勤理事と女性部役員の意見交換会  
～活動の活性化にバックアップ(9p参照)～

**5月** 新型コロナワクチン集団接種会場としてJA本店3階を提供  
～接種加速 後押し～

土・日を中心月に約15回、多い日は1日に約1,000人が接種。



**6月** 第11回通常総代会  
11期連続の黒字決算  
～当期剰余金2億7,100万円を計上～

**6月** JA×三本木農業高校

～県内初 地元高校との連携活動～

JAの施設見学や特産品の食べ比べ、職員との意見交換などでJAのイメージ向上につなげた。

**7月** 働きやすい職場パンフレリニューアル  
～就活生の理解促進～

JAの活動写真と先輩職員のメッセージで魅力ある組織をアピール。

**7月** トマト産地パックをフードパックに一新

人の手に触れにくい包装スタイルと「TOM-VEGE(トム・ベジ)」のブランドマークで消費拡大と農家所得向上へ。



**8月** 県内初「緊急安全確保」発令(七戸町)  
～農産物が冠水被害～

8月10日、台風9号から変わった温帯低気圧の影響で当JA管内でも水稻や大豆、出荷用ニンニク、イチゴ、ネギやナガイモなどが被害を受けた。



**特集 JA十和田おいらせの**

**2021年を振り返る**



令和3年1月1日～11月30日

長引くコロナ禍で農畜産物の価格低迷が続く中、追い打ちをかけるように8月の豪雨による農作物被害、米概算金の大幅下落と厳しい状況下になった2021年。JAは農家救済の独自支援策を講じたほか、初の試みでJA職員対抗の「おにぎりNo.1決定戦」などを開催し、特産農畜産物の消費拡大に努めました。

今回の特集では、広報誌から主要な出来事をピックアップし、JA十和田おいらせの一年(1月～11月)を振り返ります。

**3月** 旬を新幹線でお届け

～県内で初の試み～

新幹線や旅客高速バスの空きスペース活用で、鮮度を保ち時間と輸送コスト低減に期待。



**3月** 種苗費助成、利用奨励金など  
総額約1億3,200万円の農家支援

～3月理事会で実績報告～

○やさい産地拡大対策事業に係る助成金の支払い

…約1,580万円

○肥料・農薬・ダンボール奨励金の支払い

…約6,250万円

○やさい集荷対策金の支払い…約5,390万円

**4月** SDGs動画、ポスター制作

～カラフルにわかりやすく～



ポスターは当JAのホームページからもご覧になります。



**5月** 令和2年度暴風雪被害  
～令和2年12月中旬～令和3年1月)に  
対する被災農家の再生産支援対策

○パイプハウス再建助成…対象ハウス140棟

○融雪剤購入助成…対象数量4,607袋(229件)

○パイプハウス代金の決済期間の延期

**1月** 非接触型の新たな販売戦略

～3Dアバター(キャラクター)で消費宣伝～

画面に写るアバターが「かだあ～れ」で販売する農産物の食べ方を提案。



**2月** 「十和田こども食堂」を応援します!

～夏秋の収穫シーズンに「食」提供～

十和田市の支援団体「十和田こども食堂実行委員会」に協賛。支援団体として「こども食堂バス」に当JAの広告ステッカーが貼られた。



8 畜産と経済農業  
12 つくる責任、つかう責任  
10 JAと十和田市黒毛和種改良組合は11月5日、三本木畜産農協で子牛管理品評会を開きました。黒毛和種の雌牛の部では、同市の川上新一さんが出品した「まりこ」(父「勝早桜5」、母の父「第1花国」、母の祖父「安福久」)、去勢牛の部で、同市の太田和政さん出品の「百合桜」(父「百合茂」、母の父「安福久」、母の祖父「勝忠平」)がチャンピオンに輝いた。

JJAと十和田市黒毛和種改良組合は11月5日、三本木畜産農協で子牛管理品評会を開きました。黒毛和種の雌牛の部では、同市の川上新一さんが出品した「まりこ」(父「勝早桜5」、母の父「第1花国」、母の祖父「安福久」)、去勢牛の部で、同市の太田和政さん出品の「百合桜」(父「百合茂」、母の父「安福久」、母の祖父「勝忠平」)がチャンピオンに輝いた。

この日は、市内の繁殖農家が育てた生後12カ月以内の雌牛33頭と去勢牛27頭、計60頭が出品されました。雌牛でチャンピオンになった「まりこ」は「毛質がよく、体上線もきれい。全体のバランスも良く、雌らしさが優れていた」と高い評価を得ました。

その他の成績は次の通り

- ◆優秀賞1席
  - ▽雌牛の部=小笠原嘉正
  - ▽去勢牛の部=小山石達也
- ◆優秀賞
  - ▽雌牛の部=農工園、畠山廣志、折田金悦、久保英美
  - ▽去勢牛の部=農工園、太田眞、畠山廣志

一敬称略



▲雌牛の部チャンピオンの「まりこ」と川上さん親子



▲去勢の部チャンピオンの「百合桜」と太田さん親子

9 大豆の収穫最盛  
11 豆腐、味噌の原料に～

JJA管内で10月下旬から11月中旬にかけて大豆の刈り取り作業が行われました。収穫期の長雨で水分量が多く、例年よりも3週間ほど遅い収穫となりました。ほ場により、一部青立ちや若干の品質低下が見られましたが、例年通りの収量確保となりました。

収穫された大豆はJA大豆センターで乾燥・調整し、検査を受けて出荷されます。一部はJAの十和田湖大豆加工所で作られる「手作りとうふ」や「米みそ」の原料となっています。



▲大豆の刈り取りを行うJA作業員

JA事業におけるSDGsの取り組みです。  
**SDGs(エスディージーズ)**とは、人類が直面している「貧困」や「飢餓」、「環境」などの課題を認識し、「持続可能な世界」実現のために2015年9月の国連サミットにおいて採択された、開発途上国だけでなく、先進国も含めた全世界共通の取り組み目標です。17の目標を掲げ、2030年までの達成を目指して世界各国で取り組みが進められています。

米価下落

JA全農日本部や経済連がJAに提示する2021年産米の概算金・買い取り価格が前年を大きく下回った。前年産から2、3割(2,000~3,000円)下げが中心。業務用途の銘柄は下落幅が大きい。20年産在庫が多く余剰感が強いことや、今後の販売環境が見通しづらいことを踏まえ、慎重に設定する産地が相次ぎだ。主要銘柄の概算金は2年連続の下落となり、米価が大幅に低迷した14年産に次ぐ低い水準となった。



就農支援を刷新

農水省は2022年度予算概算要求で、新規就農支援の刷新を打ち出した。就農前の研修生を支えるため、月最大13万円を最長2年間助成する事業を新設。農業法人などに雇われる「雇用就農」を促すため、雇用元に賃金などの元手となる資金をこれまでより長い最長5年間助成する措置も用意する。



みどり戦略  
正式決定

農水省は、農業の環境負荷低減と生産基盤強化を目指す政策方針「みどりの食料システム戦略」を正式決定した。2050年に①農林水産業の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量実質ゼロ②有機農業を全農地の25% (100万ヘクタール)に拡大③化学農薬の使用量半減――などの目標を盛り込んだ。技術革新や農家・消費者の理解を前提に、生産体系の大きな変革を打ち出した。

# 2021年 農業・農政 ニュース

岸田政権誕生

自民党の岸田文雄総裁が第100代の首相に選出され、岸田内閣が発足した。農相には同党参院議員の金子原二郎元参院予算委員長を起用した。岸田首相は就任会見で、新型コロナウイルス対策を最優先課題に挙げ、「速やかに経済対策を策定していく」と述べた。経済政策を巡り、「目指すのは新しい資本主義の実現だ」と強調。「農林水産業の成長戦略化、多様で豊かな農林水産業の構築」も課題に挙げた。

サツマイモ基腐病が九州の主産地を揺るがした。かびの一種・糸状菌による伝染病で、サツマイモなどヒルガオ科の植物に被害をもたらす。特に鹿児島、宮崎の両県で被害が深刻化している。感染した切り苗や種芋を通じて広がったとみられるが、経路は特定できない場合が多い。

震災から10年  
3月11日、東日本大震災の発生から10年を迎えた。東北農政局によると、被災3県の農地の流出・かん水面積(推定)は約2万ヘクタールで、農林関係被害額は9,929億円だった。農林水産関係の被害額は2兆3,299億円、流出やかん水などした農地の推定面積は2万530ヘクタール。統計が残る1964年以降では最大の自然災害で、流出・かん水面積のうち約7割は宮城県に集中した。



第29回JA全国大会開催

JJA全中は10月29日、第29回JA全国大会を東京都港区で開いた。「持続可能な農業・地域共生の未来づくり」を主題に、2022年度から3年間の取り組み方針を示した決議を採択。農業の持続性を高めるため、将来の担い手を「次世代総点検運動」で確保する。多様な主体と連携し「地域共生社会」に貢献することや、JA経営の基盤確立も掲げた。

日本農業新聞  
東北支所  
次長 原尻大志



## 小原修治さん優勝 ～福寿椎茸組合 収量コンテスト～

当JAのシイタケ生産者で構成する福寿椎茸組合は11月18日、十和田市熊野沢地区で収量コンテストを開きました。1~2月に植菌した直径10cm程度の原木を一人あたり5本持ち寄って収量を確認。結果、総重量2,770kgのシイタケを収穫した小原修治さんが優勝しました。

同コンテストは品種の違いや管理方法などの意見交換を目的として、同組合が年1回開催しています。

優勝した小原修治さんは「植菌後も丁寧に管理をしてきたので結果が出てうれしい。話し合いの場があることで新たな発見があり、生産意欲の向上につながる」と笑顔を見せていました。



▲シイタケの重量を確かめる組合員



## 活動の活発化へバックアップ ～JA女性部役員との 意見交換会～

本店で11月25日、常勤理事とJA女性部役員の意見交換会を開きました。女性部に対する役割や期待、地域貢献への理解を深めたほか、今後の活動方針について意見を交わしました。

意見交換会にはJA女性部役員7人、JAから畠山一男組合長ら役職員10人が出席。部員からは「活動場所の整備をしてほしい」「担当以外の職員も組織活動の理解と参加をお願いしたい」「部員勧誘においてJAからも支援をしてほしい」などの意見があがりました。

畠山組合長は「意見や要望をしっかりと受け止め、地域の活性化と活動のさらなる発展につながるようバックアップしていく」と話しました。



▲JA女性部役員と意見を交わす畠山組合長



## 児童が稻の脱穀体験 ～お米を大切に食べます～

当JAは10月28日、横浜町支店敷地内の米倉庫で、横浜町立横浜小学校5年生30人に稻の脱穀と米の検査方法を教えました。児童は小型電動脱穀機を使い、バケツで育てた稻を丁寧に脱穀。とれる米の少なさに驚きながら、米づくりの苦労や食の大切さを学びました。

中村人道指導員は「日本食はバランスが良い。好き嫌いをせず、たくさん食べて大きく成長してください」と伝えました。児童は「当たり前に食べていたお米を大切に食べたい」「おじいちゃん、おばあちゃんの米づくりを手伝いたい」と話していました。



▲米の検査方法を学ぶ児童



## 葉タバコ廃作でアンケート取りまとめ～他作物への転換で所得確保へ～

当JAは10月中旬から11月上旬にかけて、葉タバコ廃作に関するアンケート調査を行いました。日本たばこ産業(株)が令和4年産の廃作を募ると発表したことから、管内でも9割近くの生産者が廃作すると回答しました。

葉タバコ80%を栽培し、廃作することを決めた東北町の佐々木博英さんは「廃作分と合わせて他作物の面積を拡大する計画。機械更新や購入補助支援をお願いしたい」とJAに要望しました。

JAではアンケート結果を基に、他作物への転換を促し農家所得確保に向けた支援策を検討しています。



▲葉タバコ生産者にアンケート調査を行うJA職員



## ひとこと多い張り紙で 意識改革 ～すべての人の理解促進へ～

当JAでは11月から持続可能な開発目標(SDGs)の理解を呼び掛ける「ひとこと多い張り紙」をJA施設館内に掲示しています。廊下やトイレ、会議室など日常の中ですぐ目に付く場所に配置。来客者や職員が様々な問題を自身の問題としてとらえ、視点や行動を変えるきっかけづくりとします。

SDGsの理解促進を呼び掛ける苦米地良成総務課長は「持続可能なくらしのためには、一人ひとりの意識改革が必要。常に問題意識をもち地域貢献の一翼を担い続けていきたい」と話しています。

「ひとこと多い張り紙」は国際協力NGOセンター(JANIC)がホームページで無償公開しています。



▲館内に掲示された「ひとこと多い張り紙」



▲最盛期を迎えたゴボウの収穫



## 鍋にもぴったり! ゴボウ収穫最盛 ～高品質と良食味で有利販売へ～

JA管内でゴボウの収穫と共に選作業が最盛期を迎えています。11~3月にかけた秋冬シーズンは年間出荷量の7割に当たる約3,500トンを見込んでいます。鍋物シーズンを迎えて、高品質と良食味を前面にアピールして有利販売を目指します。

8月の大雨で一部のほ場では品質低下が散見されるものの、全体的な作柄は長く太めの傾向です。馬場義満指導やさい部長は「農家が丹精込めて育てた、食物繊維豊富なゴボウをおいしく食べてほしい」と話しています。